

編集・発行
うじいえ自然に親しむ会
事務局
さくら市ミュージアム
- 荒井寛方記念館 - 内

うじいえ 自然に親しむ会だより

第15号
平成26年3月1日

平成25年度を振り返って

会長 加藤 啓三

本会の活動をPRする機会が沢山ありました。まず、日本河川・流域再生ネットワーク、全労済ニュースに本会の活動が掲載。さくら市議会議員への研修会。県北地区エコもり地域推進協議会の総会。とちぎ環境・みどり推進機構の講座などに参加して本会の活動を紹介。また、「あつまれ！自然好き」（栃木県立博物館）で発表と写真展示。三井住友信託銀行宇都宮支店で写真展示。喜連川体育館で開催された「ゆめ！さくら博」では写真展とぬり絵をした子供に缶バッジをあげました。テレビでは、NHKのBSプレミアム「鬼怒川紀行」で本会の活動が放送されました。一方、交流会では、神奈川県の「桂川・相模川流域協議会」とカワラノギクの保全活動について話し合いを行いました。

人見健次さくら市長からは、「さくら市ミュージアムへの理解と協力に功績があった」として、感謝状を受けました。

児童生徒の活動では、今年度も、さくら市内の小学校5校で「自然環境について」の出前授業を行ったほか、外来種の「シナダレスズメガヤ抜き取り作業」を体験してもらいました。また、宇都宮市立旭中学校でも自然環境の出前授業を行いました。

栃木県立さくら清修高等学校生が昨年、本会の活動を体験したことから東海大学に進学したことに続いて、今年は栃木県立宇都宮白楊高等学校生が、本会の行事に参加したことにより、自然環境のことをもっと深く学びたいと、宇都宮大学と鳥取環境大学に進学を決めました。本会にとっても若い人たちの将来の進路決定にかかわったことは大変嬉しいことでした。

栃木県固有の「シモツケコウホネ」（環境省の希少生物指定）は、昨年に続き今年も花が1個咲き、安心しました。

田代俊夫顧問は、全国植樹祭（鳥取県）で農林水産大臣より、長年の植物への取り組みが評価され「緑化功労者」として表彰されました。また、会員のお孫さん（宇都宮市在住）が、セミの羽化観察会に参加して、その成果を夏休みの自由研究「セミの羽化」としてまとめ、宇都宮地区理科展銅賞に入賞しました。

さくら市立押上小学校と南小学校の星空観望会では、それぞれ200名を超える参加者がありました。南小学校では5～6年生に「太陽望遠鏡」で太陽の黒点を見せたり、夜は月や木星などと「宇宙ステーション・きぼう」の通過を見て、宇宙への関心を広めることができました。

以上、多くのことがありましたが、これらは会員の皆様方のご理解とご協力の賜と深く感謝いたします。

環境保全活動への取り組みについて

栃木県立宇都宮白楊高等学校 生物工学科長 菅井誠司

本校生物工学科が、「うじいえ自然に親しむ会」の皆様と一緒に活動させて頂くようになり、今年で早5年が経過しようしております。生物工学科では、以前から環境教育の一環として「道路沿いに見られる外来植物（ナガミヒナゲシ）の分布調査」や駆除・啓発活動を実施してきました。そんななか、鬼怒川河川敷の環境保全に取り組んでおられる貴会の活動を知り、自然の恵み豊かな鬼怒川河川敷の環境が外来植物に侵され、固有の在来生物達が絶滅危機に陥っている問題・課題を改めて認識致しました。外来種駆除や在来種の保護に白楊生と私たち教職員が微力ながら役に立つことができないか？という想いで活動に参加させて頂くようになりました。

毎年2～3回程度の参加ですが、シナダレスズメガヤ・オオキンケイギクの抜き取り作業やカワラノギクの種まきなどの活動を通し、生徒達は外来植物や在来植物の生理・生態について知り、貴会員、大学生・他校高校生達との交流を通して、多くのことを学べるとても貴重且つ有意義な機会となっております。

また、貴会からの推薦によりこれまでの活動・取り組みが評価され、平成25年度に「河川愛護表彰」という名誉ある賞を国土交通省より賜ることができました。生徒も大喜びし、今後の活動への励みになりました。

そして、この活動をきっかけに参加した生徒達も自然環境の大切さや環境保全活動の重要性・課題について考えるようになり、スキルアップを図るために宇都宮大学や鳥取環境大学などに進学し、将来は自然環境の大切さを子どもたちに伝えていくことを一生の仕事にしたいと希望する者も多く現れるようになりました。

今後は、「うじいえ自然に親しむ会」の皆様とこれまで同様の活動を行い、情報交換や交流を持ちながら、白楊生が鬼怒川河川敷の環境の現状や外来植物の駆除ならびに在来植物の保護の重要性について、地域の人たちに情報発信し、この活動により多くの人たちが興味を持って参加してもらえるよう、継続して活動に参加して行きたいと考えております。今後ともご指導・ご鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。



H25. 4. 18

シナダレスズメガヤ抜き取り作業



H25. 7. 25

「河川愛護団体」表彰記念 国土交通省下館河川事務所にて

さくら市内の児童が環境学習

理事 佐藤 裕

さくら市立上松山小学校の4年生が環境学習体験のひとつとして6月17日、鬼怒川河川敷においてシナダレスズメガヤの抜き取り作業をおこないました。むし暑い天気のもと子どもたちは真剣に作業に取り組んでくれました。対応した加藤会長のもとへ参加した児童たちからさまざまなメッセージがよせられましたのでいくつかご紹介します。

「ぼくははじめてこのようないけんをしました。シナダレスズメガヤをぬく作業をして、とてもべんきょうになりました。チョウチョをまもるためにぼくは30かぶいじょうぬきとってがんばりました。カワラバッタやのうさぎは見られなかつたけれどいろいろなチョウやいろいろなしゅるいのはっぱがみられてうれしかつたです。カンバッチありがとうございました。」(男子)

「シナダレスズメガヤをとる作業をお手伝いさせてもらいうれしかつたです。思ったよりもたくさんはえていたのであせだくになりながらがんばりました。またやれるきかいがあつたらシナダレスズメガヤをとつて、かんきょうを守るお手伝いができたうれしいです。わたしたちのために準備をしてくださりありがとうございました。」(女子)

「6月17日の校外学習ではたいへんおせわになりました。カワセミやいろいろな花の説明をきいたりシナダレスズメガヤをぬくきちうな体験をさせていただきありがとうございました。わたしはお花が好きなものすごく勉強になりました。またお話をきかせてほしいです。(女子)
最後に上松山小学校 橋本啓二校長は「環境保護活動の大切さと外来種についてさまざまな学習ができました。暑い1日となり、体験活動には最適とはいきませんでしたが、この体験は児童それぞれに何らかの形で次に生かされてくると思います。」

一方10月24日には熟田小学校の6年生が校外学習で東京大学のカワラノギク実験地をおとずれました。あいにくのお天気でシナダレスズメガヤの抜き取り作業はできませんでしたが鬼怒川に生きる植物や昆虫の観察を行いました。こどもたちの感想です。

「実験地では貴重なツチガエルやセグロバッタなどがいて虫に興味をもてました。シルビアシジミとヤマトシジミは似ていることもわかりました」(男子)

「僕は自然にはあまりきょうみがなかつたのですが、この体験を通じて自然の大切さを実感たくさん知識を得ることができました。この学習で自然を守るために今、自分にできることは、植物や動物たちが生きぬく場所をつくることであることが分かりました。これからは、このきちうな自然をもっと大切にしたいと思います。(男子)

環境学習として鬼怒川の自然をテーマにとりあげてくれたのは氏家小学校 押上小学校 南小学校 上松山小学校 熟田小学校の5校となりました。ありがとうございます。

シルビアシジミがとりもつ縁

2月19日 加藤会長が宇都宮の中学校で出前授業

お礼の言葉

うじいえ自然に親しむ会 加藤啓三様

本日はお忙しい中、私たちのために貴重なお話をありがとうございました。私は今まで鬼怒川についてよく知りませんでした。しかし本日の講演をきいて、多くのことを学ぶことができました。まず、鬼怒川に生息している生き物のことです。私も鬼怒川に行ったことがあります、こんなにたくさんの生き物が鬼怒川に棲んでいるなんて思いもしませんでした。「カワラ」ではじまる名前の生き物が多いというのも面白く、ほかにどんな名前の生き物がいるのか調べてみたくなりました。また、シルビアシジミを県内で2番目に採集したのが旭中学校の生徒だということにも驚きました。私たちの先輩が記録に残っていると思うと、とてもうれしく誇らしい気持ちです。そして、その生き物たちをとりまく環境が悪化していることも初めて知りました。うじいえ自然に親しむ会の皆さまの活動は、鬼怒川に棲む多くの命を救うすばらしいものだと思います。私も皆さまのように、自分が生まれ育った地域に棲む生き物をまもっていきたいと思いました。私にできることは少ないかもしれません、ボランティアなどに積極的に参加し、地域の環境保全に貢献していきたいです。皆さまの活動により、これから多くの生き物たちの命が救われることを願っています。本日はありがとうございました。

宇都宮市立旭中学校 第1学年 生徒代表

保全活動に参加して

栃木県立宇都宮白楊高等学校 生物工学科 3年 菊池 萌々

私は先日、「うじいえ自然に親しむ会」の方々と協力してシナダレスズメガヤの防除、カワラノギクの播種作業を行ってきました。この活動を通して、鬼怒川に外来植物が急速に繁茂しているという実態が分かりました。

また、講演会にも参加し、鬼怒川河川敷に外来植物が繁茂した原因・歴史や鬼怒川周辺の生態系の豊かさについて深く学ぶことができました。特に印象に残っていることは、ダムや道路のり面の土留めに持ち込まれた外来植物が礫河原の在来植物の生育を阻害し、絶滅においやっているということです。在来種や希少種が絶滅してしまえば、私たちの子や孫などの時代に役立つかも知れない貴重な遺伝資源を失うことになると思いました。遺伝資源は、将来医療や品種改良に役立つ可能性があるため残していく必要があると強く思いました。

私は今回参加した活動や環境学習の体験を踏まえ、宇都宮大学に進学後は外来植物の侵入動態調査に取り組み、外来植物の繁茂を未然に防ぐ研究をしていきたいと考えています。また、今後も鬼怒川河川敷での活動にも継続して参加し、在来植物の保全・保護にも力を注いでいきたいと思っています。

「星空観望会写真展」

さくら市立南小学校長 小林一正

2月7日（金）午後7時より、快晴・無風という絶好のコンディションの中、「うじいえ自然に親しむ会」との共催、本校PTAの後援と「星とロマンを語る会」の協力をいただき「星空観望会」を開催することができました。今回は、“上弦の月”と“木星”的観察を中心に行いましたが、「星とロマンを語る会」の会員の皆さんを持ち寄られた天体望遠鏡と学校の望遠鏡を配置して7台で観測することができました。

オープニングに合わせて、午後7時3分にはタイミング良く「宇宙ステーション・きぼう」が北西の空から北東に移動する様子を見ることから始まり、“上弦の月”や“木星”と“冬の大三角”などの星座を観察しました。

木星の観測では、木星の表面のしま模様やガリレオ衛星などがはっきりと確認することができました。月の観測では、クレーターがくっきりと見え、参加者の中にはデジカメや携帯電話・スマートフォンなどで撮影する姿が数多く見られました。また、「星とロマンを語る会」の阿見先生からは、冬の星座についての説明がありました。

寒い中でしたが、4年生の児童を中心に240名を超える数多くの参加者でぎわい、天体望遠鏡には観測を待つ長蛇の列ができていました。

この機会に、子ども達の科学する心や宇宙・天体観測への興味・関心を高めていければと思い「星空観望会写真展」を開催しました。模造紙2枚分のスペース（宇宙？）には、子ども達が撮影した“月面の写真”の他に、観望会の様子や“上弦の月”的解説などを掲示しました。

写真展で“学校長賞”を受賞した、1年生の野中望結（みゆ）さんは「きれいな月が見られて、写真もたくさん撮れてうれしかったです。」とコメントしていました。また、“理科主任賞”を受賞した6年渡辺拓巳（たくみ）君は「月の表面には、ごつごつしたクレーターが沢山あり、すごいと思いました。上弦の月はとても綺麗でした。」という感想を述べていました。

最後に、理科主任の岡崎教諭からも「当日は、天候にも恵まれ太陽・月・木星を観察することができました。私も見るのが初めてだったため、とても興奮しました。きっと子ども達にとって、思い出深いものとなったことでしょう。今回の“星空観望会”を機に、子ども達が天体に少しでも興味を持ってくれたなら嬉しく思います。」と感想を述べていました。

「星とロマンを語る会」の会員の皆様には、長時間の観望会へのご協力・ご助言に対しまして、この場をお借りいたしまして感謝申し上げます。ありがとうございました。



校長室前廊下に貼られた写真展



にぎわう観望会の写真